

一般質問(要旨)

第2回定例会では、6月11日、12日、14日、15日の4日間にわたり21人の議員が一般質問を行いました。各議員の主な質問と答弁を要約して掲載します。



小野 寺克己

ひきこもり対策と孤立化と困窮で生活維持が課題の「8050問題」について

問 ①若者の相談窓口は従来の電話・メールでは不十分であるためSNSを活用した相談などの動向も踏まえて相談窓口について注視・検討をお願いする。中途退学すると働く情報が手に入りにくくなる状況があるため中学生のうちからのサポートステーションなどの情報提供について何う②ひきこもりサポーター派遣事業についての課題と今後の対応について何う。

答 ①ちようふ若者サポートステーションでは、中途退学者や進路未決定卒業者の希望に応じて、アウトリーチ型の支援などの対応を行っている。現在は、中学校に周知はしていない。「狛江市若者支援ガイド」を中学校を卒業する若者へ配布することを検討②ひきこもりサポーター派遣事業は、課題を抱える本人または家族が支援を希望する場合に活用できる。今後、活用の検討をしていく。

一番犯罪件数の少ない市となるため市内全体で抑止力が高まる防犯対策について

問 ①犯罪傾向と多発地域をどのように分析し、どのような対策が必要と考えているのか何う②防犯カメラ設置等の防犯体制整備について、市民が多く利用する市民センターなど未設置箇所の設置検討を要望すると共に「ドライブレコーダー作動中」などのステッカーを貼り、行政と企業が協力し市内全体で抑止力が高まるような協力体制の構築を望んでいたことについて何う。

答 ①29年中、刑法犯認知件数は491件で、自転車盗難186件、振り込め詐欺34件、侵入盗27件など。地域について目立った傾向は特にないが、パトロールなど含めた抑止力が働く対策が必要②防犯カメラは、設置箇所を精査しつつ、設置拡充を目指す。ドライブレコーダーの有益性については認識しているが、条例との兼ね合いもあり、慎重な検討・考察が必要。



石川 和広

公共施設マネジメントについて

問 ①狛江市が捉える「公共施設マネジメント」とはどのようなものか②狛江市公共施設等総合管理計画に「ファシリテスマネジメント」の概念は組み込まれているか③固定資産台帳の活用方法は④事業別、施設別の財務諸表を作成しようとするか、どのようなことが必要になってくるか⑤フルコストからの成果指標をもって事業における施策の判断をしていくことについてどのように考えるか。

答 ①長期的視点から、計画的に維持管理・更新し、財政負担の軽減や安定的な市民サービス提供に努めること②考え方が含まれていると認識③個別計画の検討の際の基礎資料や施設管理におけるフルコストの把握が可能になる④実務面とシステム運用面の課題整理が必要⑤フルコストから費用対効果を見て施策を判断する視点は必要。

会議の体制構築及び活性化に関して

問 ①庁議における効果的な運営や議論活性化への工夫は②庁議メンバーや管理職員等に、庁議に関するヒアリング調査を行うなど意見等を吸い上げ、庁議をさらに有効なものにしていくという視点はどうか③子ども・子育て会議における効果的・効率的な会議運営や議論活性化への取り組みは④総合教育会議の開催によって得られた効果等について、教育委員会ではどのように捉えているのか。

答 ①事前の資料配布、複数回の審議等により十分な審議ができるようにしている②他自治体の取り組みの研究や十分な議論の上で意思決定できるようにすることは重要と考える③市民等の参加により多様な視点からの議論を展開。活性化のため他市の取り組みを調査研究していく④市長が教育行政において果たす役割や責任が明確になった。



亀井 和美

不登校・いじめ対策「いじめ」は、いじめを側が100%悪い！

問 ①文科省委託の「支援チームによる不登校モデル事業」の成果②不登校といじめの関連性について市の認識③QR-Uアンケートの目指すもの④hyper-QUが学級づくりにどのように役立っているのか⑤教育長のいじめに対する認識。

答 ①ひきこもりの生徒が外出できるようにつながる傾向がある③児童・生徒に応じた教育を確立するために活用④個別の支援と集団指導のバランスを考慮できる⑤相手の人格・尊厳を傷つける許されない行為。

毎日歩いている道路。「市道」「私道」の区別、分かりますか？

問 ①道路修繕計画を策定後の道路整備の距離とその進捗状況②道路修繕計画における優先順位の考え方③整備距離延伸の要望に対する課題④公道と私道の大きな違い⑤「私有道路の整備に関する規則」があるが、私道の舗装ができないのはなぜか。

答 ①占用工事を含め約11.3km、約35.3%の進捗。全延長の約9.6%②舗装状況調査や道路利用を考慮し決定③労務費や資材費の高騰や技術者不足で進捗が少ない④見ただ目で違いの判断は難しい⑤私道は個人等の財産。管理者は所有者との認識。

高齢になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせる見守り体制を！

問 ①市の見守りサービス、29年度の利用状況②75歳以上の高齢者の90%以上が見守りサービスを受けていない現状に対する認識③市としての課題と今後の取り組み④地域住民主体の何げない見守りの強化に対する認識。

答 ①あんしん見守り79件、緊急通報装置123件、配食サービス76件②登録者を増やす取り組みが必要③サービスを知らない方が多い。より必要性の高い方を対象に案内する④身近な見守りは有効。



佐々木 貴史

健康施策について

問 ①平均寿命と健康寿命の差の期間は何から人の手を借りるいわゆる介護が必要な期間に当たるとも言えるが、狛江市におけるその差を何う②介護という身体的に不自由な方へ手を差し伸べることと捉えがちだが、認知症の方への介護というものをどう捉えるか何う③認知症の疑いのある方をどううに医療機関につなげていけば良いのか実例など含め何う。

答 ①平均寿命と健康寿命の差は男性3.11歳、女性6.67歳②身体的に不自由がなさそうの方でも、認知機能低下により日常生活に支障が出ている場合は、介護が必要な状態に当たる③認知症の専門的知見を持つ医師が自宅を訪問し信頼関係を構築するなど、自宅や地域で医療や介護の専門家と話す機会を持ち、これをきっかけに医療機関に繋げる仕組みも有効。

安全・安心なまちづくりについて

問 ①熱中症について学校施設における対策と冷水器の設置を何う②自転車の安全対策について生徒への指導を何う③電動アシスト自転車の利用者への注意喚起を何う④交通安全のための立て看板は市内に多くあるが、古くて字も読めない等の課題があるので計画的に交換できないか何う⑤先日のぼやを教訓とし、利用者の多い公共施設はガスコンロを撤去し電気湯沸かし器の設置の必要性について何う。

答 ①普通教室と特別活動室に空調設備を設置等している。冷水器を設置している地域を参考に検討する②小学校は体育科の保健領域、中学校では加害者責任等を学習③交通安全教室で点検・整備方法や安全な乗り方を周知したい④適宜、更新等の対応はしたい⑤電気式器具への変更にも努める。